

# 松代地震センターの概要

松代地震センターは1967(昭和42)年2月、関係機関 [(注)以下当時の名称のまま：総理府、科学技術庁、文部省(東京大学、京都大学、信州大学)、農林省、通商産業省、運輸省気象庁、建設省、長野県、長野市] \* により構成される協議体として設立されました。

1965(昭和40)年8月から始まった松代群発地震は活動が何年にもわたり、ほかに例を見ない群発地震となりました。気象庁をはじめ各関係機関においてすすめられた多岐にわたる観測等の資料を一元的に収集及び整理し、関係機関等に広く提供することにより、地震対策および共同研究に資することが設立の目的です。

現在、松代群発地震は身体に感じない地震は一日に一回程度、身体に感じる地震は数年に一回程度の活動が続いています。しかし、発足当時と比べると活動レベルは大幅に低下していることから、それにともない当センターの業務も変化しています。現在は収集した資料の維持管理ならびにデジタル化を進めるとともに、希望者への資料提供、松代群発地震の記憶の継承、近年の地震からみる防災意識の啓発などをおこなっています。



1967.2.8 看板をかかげて発足

\*現在、総理府は内閣府に、科学技術庁・文部省は文部科学省に、農林省は農林水産省に、通商産業省は経済産業省に、運輸省・建設省は国土交通省にそれぞれ改組されています。